

東臼杵北部地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年7月 東臼杵農林振興局
(東臼杵北部農業改良普及センター)

目次

- I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P 2)
 - 1 令和8年度延岡市農業労働力確保対策協議会総会が開催
 - 2 第13回全国和牛能力共進会宮崎県出品対策共進会の代表牛が決定
 - 3 ブロッコリーの意見交換会が開催
- II 主な普及指導活動等の取組
 - 1 地域プランに基づく普及活動 (P 3～4)
 - 1 【施策1】 無人ヘリ・ドローン防除の講習会にて防除適期を説明
 - 2 【施策2】 認定農業者フォローアップ
 - 3 【施策3】 シキミでのドローン防除現地検討会を実施
 - 4 【施策4】 WCS用稲の乾田直播支援
 - 2 地域課題一覧に関する普及活動 (P 4)
 - 1 全国茶品評会に向けた調整作業を実施
 - 2 宮崎県果振協かき部会栽培講習会が開催

I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

1 令和8年度延岡市農業労働力確保対策協議会総会が開催

10日、延岡市役所講堂にて通常総会が開催されました。

この協議会は不足する農業労働力を補完する人材の確保及び農業分野への障がい者の就労を支援するため、農業分野と福祉分野の関係機関・団体により平成30年に設立されたものです。

今年度の取組計画については、これまでの活動に加えて、農業用機械オペレーター養成研修会の講師候補者に農業者、さらには北浦町農業公社にも協力をいただく予定になっているほか、新たに雇用人材マッチングアプリを推進することで事業計画が承認されました。これまで取り組んできたお試し就農や農作業見学会も含めて、地域での農業人材確保が進むことが期待されます。



総会の様子

2 第13回全国和牛能力共進会宮崎県出品対策共進会の代表牛が決定

31日、延岡家畜市場品評会会場において、9月26日に開催される第13回全国和牛能力共進会宮崎県出品対策共進会に出品する地域代表牛の決定検査が行われました。

東臼杵各地の生産者によって精魂込めて育てられた候補牛8頭が審査され、代表牛5頭が決まりました。そのうち4頭は延岡地域の出品牛です。

今後、JA、NOSAI、市、県の関係機関が牛の手入れや調教等を支援し、「チーム東臼杵」として本番に臨みます。



代表牛を決める審査

3 ブロッコリーの意見交換会が開催

22日、延岡市役所にて、ブロッコリーの品質向上を目的に市主催にて意見交換会が開催され、生産者5名と普及センターを含めた関係機関3名が参加しました。普及センターからは、生産者に対して、黒すす病の防除と昨年実施したブロッコリー発肥料の試験結果について説明を行いました。黒すす病については、一昨年から発生が増えており、薬剤の種類や散布タイミング等について重点的に説明を行いました。生産者からの質問も多く出され、防除意識の向上が図られました。

今後、栽培が始まるので、市と定期的な巡回を行い、栽培支援を実施していきます。

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組

1 地域プランに基づく普及活動

1 【施策1】 無人ヘリ・ドローン防除の講習会にて防除適期を説明

6日、NOSAIみやざき北部センターにおいて、延岡スカイサービス(株)の社員・オペレーターが参加する安全講習会が開催され、農作業安全のポイントのほか、防除作業の流れ等の説明が行われました。普及センターは、同社からの要請を受けて、初めて講習会に参加し、今年の病害虫発生状況や害虫毎の防除適期などの説明と熱中症予防の啓発を行いました。

今年度は早期水稻において6月に斑点米カメムシ類の注意報が発令されるなど、等級格下の要因となるカメムシの発生が多く、地域巡回においても「イネカメムシ」が多いほ場を確認している状況等を説明したところ、オペレーターとして参加していた稲作経営者からも「今年は例年になくカメムシが多い。しっかりと適期に防除し密度を減らしたい。」との反応がありました。

普及センターでは、無人ヘリ・ドローンの防除の担い手として約1,200haの防除を受託する同社が防除効果を高め、地域の1等米比率が向上するよう、引き続き防除情報の提供に努めてまいります。

2 【施策2】 認定農業者フォローアップ

農業経営改善計画の5年目となる認定農業者のフォローアップ巡回を行いました。

・15日：施設野菜1件、22日：複合経営1件、24日：複合経営1件

関係機関と連携し、対象者の現状と5年後の目標を踏まえた上で、次期の農業経営改善計画の作成を支援しました。普及センターからは、生産状況等を含む経営状況を聞き取った上で、課題解決のために何に取り組むのかを具体化できるように助言しました。

今回の活動を通し、各対象者の経営改善に向けた意欲を高めることが出来たと思われまます。今後も農業者の経営改善を支援していきます。

3 【施策3】 シキミでのドローン防除現地検討会を実施

15日、北川町のシキミ園地4箇所にて、生産者のべ20名程度と関係者数名が参加して、北川町しきみ部会主催でドローン防除の現地検討会が実施されました。

今回はシキミ園地で実際にドローンを使って農薬散布する様子を生産者に見学してもらうことを目的として、事前に生産者と打合せを行い、延岡スカイサービスへ散布をお願いしました。当日普及センターは薬液の調整や、オペレーターと散布範囲の確認等を行いました。農薬のかかり具合や散布時間の短さを見学した生産者からは「これなら頼んでみたい」という声が聞かれました。

今後は防除効果やシキミの品質を確認し、ドローン防除の料金等と併せて生産者へ説明し、繁忙期でのドローン防除の導入推進を図りたいと考えています。



シキミ園地でのドローンによる農薬散布

4 【施策4】 WCS用稲の乾田直播支援

16日、北方町において、自給粗飼料の生産性向上を目的に、WCS用稲の乾田直播に取り組む肉用牛農家を対象として播種作業の技術支援を行いました。

本技術は、育苗や移植の手間を省くことで大幅な作業省力化とコスト削減が期待されており、同農家では昨年に引き続き2回目の挑戦となります。

支援後の23日（播種7日後）には、現地にて無事に発芽を確認しました。生育が順調に進めば、地域の飼料生産における有力な省力化モデルとなるため、農家からも大きな期待が寄せられています。

普及センターでは、今後も生育状況の定期的な確認を継続し、肉用牛農家の自給粗飼料の確保と生産技術向上に向けた伴走支援を行っていきます。



WCS用稲の乾田直播播種後の鎮圧作業

2 地域課題一覧に関する普及活動

1 全国茶品評会に向けた調整作業を実施

8日、10日、総合農業試験場茶業支場において、全国茶品評会に向けた調整作業が行われ、出品農家4名の支援を延岡市、JA、県専門技術センター及び試験場の職員と連携して実施しました。調整作業は、茶種の魅力を最大限に引き出す目的で、4月に製造した荒茶を香りや味、水色を確認しながら、篩（ふるい）や唐箕（とうみ）等を用いて外観を整えていきます。

完成した出品茶は、8月に行われる全国茶品評会で審査されることとなっています。出品する生産者は「これまでの取り組みが評価につながり、悲願の産地賞を獲得したい」と、抱負を語りました。

こうした取り組みが、生産者の生産意欲の向上や、産地全体の技術向上に大きく寄与しており、普及センターとしても引き続き支援を行っていく予定です。



調整作業の様子

2 宮崎県果振協かき部会栽培講習会が開催

24日、JAみやざき延岡地区本部北方支店及び北方町のかき園地にて、生産者12名、関係者10名が参加して、宮崎県果振協かき部会栽培講習会が開催されました。

はじめに室内で昨年の出荷実績報告や、県専門技術センターの専門技術員から栽培講習が行われました。その後、現地に移動し、県総合農試果樹部と普及センターの職員で昨冬剪定講習を行った樹の着果状況を確認し、摘果の方法等について生産者に説明を行いました。

この講習会は国富町と北方町のかき生産者の交流の場も兼ねており、それぞれの地域で栽培されている品種は異なりますが、生産者同士で活発に情報交換が行われました。



現地での研修